

第4節 生活の状況

1. 1ヶ月の支出

Q20 <学生(Q12=5)以外に対して> 毎月の支出は平均していくらぐらいになりますか(ここ3か月ぐらいの平均)。次の各項目について()内に当てはまる数を記入してください。(注:整数または小数の場合は小数点以下1位までで記入)

(1) 食費	東京	(非正規)	大阪
平均額(空欄を0円として処理した場合)	2.5(万円)	2.9(万円)	2.1(万円)
平均額(空欄をNAとして処理した場合)	2.9(万円)	3.2(万円)	3.2(万円)

(2) 寝泊まりのための費用(ネットカフェ等の利用料を含む)

平均額(空欄を0円として処理した場合)	2.4(万円)	2.7(万円)	2.3(万円)
平均額(空欄をNAとして処理した場合)	2.8(万円)	3.1(万円)	4.0(万円)

(3) 衣服・日用品や理美容・浴場など生活必需項目

平均額(空欄を0円として処理した場合)	0.6(万円)	0.6(万円)	0.1(万円)
平均額(空欄をNAとして処理した場合)	0.9(万円)	0.9(万円)	0.3(万円)

(4) 携帯電話代

平均額(空欄を0円として処理した場合)	0.4(万円)	0.4(万円)	0.4(万円)
平均額(空欄をNAとして処理した場合)	0.5(万円)	0.6(万円)	1.0(万円)

(5) 娯楽(飲酒・ギャンブル・ゲーム・雑誌などを含む)

平均額(空欄を0円として処理した場合)	1.7(万円)	1.2(万円)	0.2(万円)
平均額(空欄をNAとして処理した場合)	2.6(万円)	1.9(万円)	0.5(万円)

まず、それぞれの支出項目別の支出額の分布についてみると、表15のとおりとなり、対象者により相当程度のばらつきがみられるとともに、「空欄」としていた者が相当割合にのぼることがわかる。

この「空欄」は、「0円」や「0円に近い少額」を意味する場合のほか、婉曲な回答拒否の場合や、1か月分の毎日異なる支出額の記憶をたどって合計額を回答することが、比較的記憶しやすい収入額や借金額とは異なり困難であることから回答者自身も「わからない」場合など様々な場合があると考えられる。

「空欄」回答は相当割合にのぼるだけに、その処理如何で集計結果に影響を与える可能性があると考えられるため、空欄を「0円」として処理した場合と、「NA」として処理した場合の結果を併記した。

表15 支出額の分布

(%)

	食費		寝泊まり費		生活必需品		携帯電話		娯楽	
	東京	大阪								
50,000円超	8.0	9.8	5.4	12.2	0.9	0.0	0.0	2.4	5.4	0.0
～50,000円	5.8	7.3	7.1	7.3	0.9	0.0	0.4	0.0	3.1	0.0
～40,000円	13.4	12.2	15.2	14.6	1.3	0.0	0.0	2.4	3.6	0.0
～30,000円	20.1	19.5	17.9	12.2	4.5	0.0	1.8	0.0	4.0	2.4
～20,000円	18.8	9.8	12.1	4.9	3.1	0.0	6.7	4.9	12.9	2.4
～10,000円	10.7	2.4	11.2	4.9	15.2	12.2	12.9	0.0	7.1	2.4
～5,000円	3.6	2.4	10.3	0.0	11.6	2.4	5.4	14.6	6.3	4.9
0円(1000円未満)	2.7	0.0	3.6	2.4	24.1	19.5	40.2	19.5	19.6	19.5
空欄	12.1	36.6	12.5	41.5	30.8	65.9	23.2	56.1	29.9	68.3
NA	4.9	0.0	4.9	0.0	7.6	0.0	9.4	0.0	8.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1ヶ月あたりの支出は、平均すると、食費では東京2.5万円～2.9万円・大阪2.1万円～3.2万円、寝泊まり費では東京2.4万円～2.8万円・大阪2.3万円～4.0万円となっている。

なお、これら数字は、現在ほとんど定収入のない失業者・無業者も含む数字であるので、就業状態・就業形態別にみていく必要があり、これを一覧表にしたものが表16である(「食費」と「寝泊まり費」とについてのみ掲げた。)

これによれば、食費(東京)については、「②住居喪失非正規労働者」は2.9万円～3.2万円、「④住居喪失日雇派遣労働者」は3.2万円～3.7万円となっている。また、寝泊まり費(東京)については、「②住居喪失非正規労働者」は2.7万円～3.1万円、「④住居喪失日雇派遣労働者」は2.8万円～3.3万円となっている。

表16 就業状態・就業形態別の支出額

(万円)

	食費		寝泊まり費	
	東京	大阪	東京	大阪
①住居喪失者	2.5～2.9	2.1～3.2	2.4～2.8	2.3～4.0
②住居喪失非正規労働者	2.9～3.2	2.2～3.4	2.7～3.1	2.3～3.4
③住居喪失日雇労働者	2.7～3.1	※	2.7～3.0	2.3～3.2
④住居喪失日雇派遣労働者	3.2～3.7	※	2.8～3.3	※
⑤住居喪失日雇直用労働者	2.5～2.9	※	2.6～2.9	※
⑥住居喪失自営業・フリーランス	2.6～3.0	※	3.7～4.3	※
⑦住居喪失失業者	1.8～2.1	※	0.8～1.0	※
⑧住居喪失無業者	1.2～1.3	※	1.0～1.0	※

(注)「○～○」という表記の左側は、空欄を0円として処理した場合、右側は空欄をNAとして処理した場合の数字を表す。※は対象調査サンプルが10人未満であることを表す。

2. 借金の状況

Q21 <学生(Q12=5)以外に対して> 現在借金がありますか。ある場合は、総額でどのくらいになりますか。()内にあてはまる数を記入してください。(注:ない場合は0と記入)

	東京	(非正規)	大阪
ある (万円)	29.9 (%)	32.2 (%)	48.8 (%)
ない	55.4 (%)	50.7 (%)	41.5 (%)
NA	14.7 (%)	17.1 (%)	9.8 (%)
	100.0 (%)	100.0 (%)	100.0 (%)
現在の借金額 (「ある」者の平均額) ^(注18)	92(万円)	92(万円)	124(万円)
現在の借金額 (「ある」者と「ない」者の平均額)	32(万円)	35(万円)	62(万円)

借金については、東京では、「ある」とする者が約3割(29.9%)で、現在の借金額は、「ある」者の平均で92万円、「ある」者と「ない」者の平均で32万円である。大阪では、「ある」とする者が約半数(48.8%)で、現在の借金額は、「ある」者の平均で124万円、「ある」者と「ない」者の平均で62万円である。

東京分について年齢階層別にみると、借金のある者が中高年層で27.3%であるのに、若年層では64.2%となっている。

3. 雇用保険・社会保険の加入状況

Q24 <学生(Q12=5)以外に対して> 雇用保険・社会保険に加入していますか。(注:現在、保険料を支払っている場合を「加入」とします。)

(1) 雇用保険	東京	(非正規)	大阪
1. 加入している	4.0 (%)	3.4 (%)	7.3 (%)
2. よくわからない	14.3	19.2	0.0
3. 加入していない	80.4	76.0	85.4
NA	1.3	1.4	7.3
	100.0	100.0	100.0

(2) 医療保険	東京	(非正規)	大阪
1. 「健康保険」に加入	3.1 (%)	2.7 (%)	0.0 (%)
2. 「国民健康保険」に加入	6.7	4.1	22.0
3. よくわからない	15.6	20.5	7.3
4. 加入していない	73.2	71.2	65.9
NA	1.3	1.4	4.9
	100.0	100.0	100.0

(注18)借金額については1000万以上の者が東京で2人、大阪で3人いたが、事業に失敗した自営業者など特殊要因によるものと考えられるとともに、平均額を大きく引き上げるものとなるため、これらを除外して平均値を計算した。

(3) 年金	東京	(非正規)	大阪
1. 「厚生年金」に加入	3.6(%)	3.4(%)	14.6(%)
2. 「国民年金」に加入	2.7	0.7	9.8
3. よくわからない	12.9	17.1	4.9
4. 加入していない	79.0	76.7	68.3
NA	1.8	2.1	2.4
	100.0	100.0	100.0

雇用保険・医療保険・年金については、「加入していない」者が全体的に7～8割である。

4. 悩み事等を相談できる人

Q25 <学生(Q12=5)以外に対して> 困ったことや悩み事を相談できる人がいますか。次の中からあてはまるものを全部あげてください。(7.以外複数回答可)

	東京	(非正規)	大阪
1. 親	2.7(%)	3.4(%)	19.5(%)
2. 兄弟・親せき	8.9	9.6	4.9
3. 友人	29.0	32.2	12.2
4. 知人・知り合い	13.8	11.6	4.9
5. 職場の同僚	0.9	0.7	4.9
6. その他 ^(注19))	7.1	7.5	7.3
7. 相談できる人はいない	42.2	38.4	56.1
NA	4.9	5.5	0.0

困ったことや悩み事を「相談できる人がいない」とする者の割合は、東京では42.2%、大阪では56.1%である^(注20)。

(注19) Q25(悩み事を相談できる人)の6(その他)の具体的回答例は、「区役所・福祉事務所」(10人)など。

(注20) 「悩み事の相談相手がない」とする者の割合については、例えば、労働政策研究・研修機構が東京の18～29歳の若者2000人(学生・主婦除く)に対して行った「若者のワークスタイル調査」(＝「大都市の若者の就業行動と移行過程(2006)」所収)において類似の質問項目があるが、男性で4～5%程度(経済的な問題を除く)となっており、それに比べて本調査の割合は相当高いものといえる。

5. 将来の生活に対する気持ち

Q26 <学生(Q12=5)以外に対して> 将来の生活に対してどんな気持ちを持っていますか。次の中から最も近いものを一つ選んでください。

	東京	(非正規)	大阪
1. やりたいことなど将来の希望や目標があるので、がんばることができる	10.7(%)	9.6(%)	12.2(%)
2. いずれどうにかなると思うので、将来はあまり不安ではない	17.9	17.1	17.1
3. 将来のことは考えないようにしている	17.9	15.1	17.1
4. 将来のことが、漠然と不安	26.3	28.1	19.5
5. 将来のことが、とても不安	20.5	22.6	34.1
NA	6.7	7.5	0.0
	100.0	100.0	100.0

「将来の生活に対して不安」(4・5)を感じている者が、約半数を占めている(東京46.8%・大阪53.6%)。

東京分について年齢階層別にみると、「いずれどうにかなると思う」者(2)の割合は、若年層で28.4%であるが、中高年層はその半分(11.9%)となっている。

6. 一番困っていること

Q27 <学生(Q12=5)以外に対して> 今、一番困っていることはどんなことですか。(自由記述)

今、一番困っていることに関して自由に回答してもらった内容を、東京と大阪の住居喪失者全体について大まかに分類してみると、「仕事がない」「仕事が不安定」など仕事に関することをあげる者が23.0%、「住居がない」「アパートを借りたい」など住居に関することをあげる者が22.3%、「お金がない」「収入が不安定」など収入や金銭の確保に関することをあげる者が20.0%となっており、「仕事」「住居」「金銭」に関する回答が多かった。

そのほか、「病気・けが・健康状態」(7.2%)、「食事」(3.8%)、「債務・借金」(1.9%)などが困っていることとしてあげられている。